

# 高校演劇・舞台技術創造講習会 2024レポート

レポート：熊野 大輔

## ■第48回 全国高等学校総合文化祭2024 ぎふ／演劇部門

第70回 全国高等学校演劇大会 舞台技術創造講習会

- 会場：不二羽島文化センター めのぎくホール
- 準備期間：2024年7月29日～8月2日
- 開催日時：2024年8月2日 13:10～15:10
- 講師：土屋 茂昭／土岐 研一／佐々波雅子（日本舞台美術家協会）  
乳原 一美（日本照明家協会）／吉木 均（日本舞台監督協会）  
中村 知子／谷口 窓子ほか（金井大道具株式会社）  
藤田 赤目／熊野 大輔（日本舞台音響家協会）

- テキスト：『きみのこえをさがして』  
作：上田 美和（鹿児島県立伊集院高校教諭）  
演出：鹿目 由紀（劇団あおきりみかん）  
出演：岐阜県下高校演劇部



## □概略

2024年8月2日(金)、「清流の国ぎふ総文2024 全国高等学校総合文化祭(総文祭)演劇



会場の様子

部門」の分科会のひとつとして、「舞台技術創造講習会」が開催されました。7月29日からの準備は、高校生たちとともに行いました。私は音響オペレーターとして参加し、その5日間をここに報告するものです。

## 【1日目】7月29日(月)設営

東京から来る藤田赤目さんら講師陣は28日の午後にはホールの下見を行ったそうですが、現地スタッフの私は29日の朝に合流しました。高校生参加者(8月2日の受講をする高校

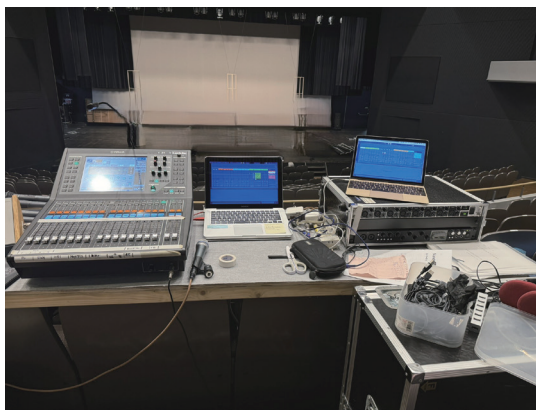
生たちと区別をしてこのように呼称します) たちとここで顔合わせ。音響の参加者は4人。音響調整卓や各種機材を運んだり結線してくれたりと熱心に動いてくれます。



卓周りの結線をしている高校生参加者たち。軽作業とはいえ間違えがあるとあとあと筆者が困るので、近くで見えています。

私はといえば、演劇音響は6年ぶり。その6年前というのも、「2018信州総文祭」における舞台技術創造講習会での現地音響オペレーターですから、それを抜くと9年ぶりということになります。(私は2018年には長野県に居り、翌年以降岐阜県に居ります。つまり私は現在唯一の「2度採用された現地スタッフ」です。)

音響卓のYAMAHA QL1の使い方も再生ソフトウェアのAbleton Live (以下Live)の使い方もすっかり忘れており、それらを思い出す



卓周りの様子。このあと幾度かの模様替えをします。

だけでこの日いちにちを費やしました。機材をレンタルした「サウンドステージサービス」のスタッフに「ここをタッチしてください」と手取り足取りサポートしていただきました。ここにお礼申し上げます。

この日は回線チェックをしたところで終了。

## 【2日目】7月30日(火)設営・稽古対応・サウンドチェック

10:00からスピーカーをバトンに吊る作業。高校生参加者にも頑張ってもらいます。音響の設営は、丁寧にデザインされた舞台美術や照明を物理的に邪魔せず、かつ自分たちの主張も通すバランス感覚が求められる、ということを高生にうまく伝えられたでしょうか。美術は日本舞台美術家協会 **土岐研一**さんによるもの。コーディネーターの日本舞台美術家協会 **土屋茂昭**さんは今回衣装も手がけています。

午後は舞台上で、金井大道具の**中村知子**さん、**谷口窓子**さんらによる舞台美術講習会が行われました。私は稽古場対応。パソコンと、フェーダー付きのMIDIコントローラー、そして小型のパワードスピーカーをつないだ簡



スピーカーの吊込み作業



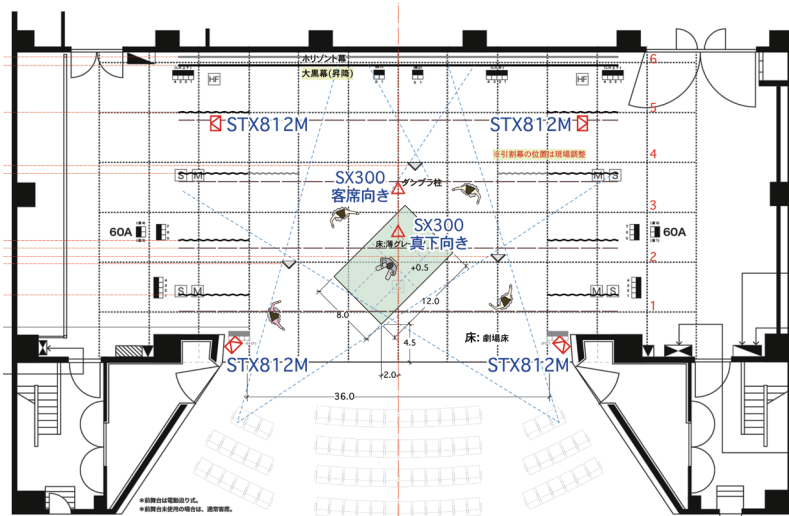
2台のSx300を吊った状態。6/バトンについては、出来るだけ低い位置に吊りたいという都合上、客席からバトンが見えないように、スリングベルトと単管で桁吊りにしてあります。

易なセットで、プランナーの矢継ぎ早に飛んでくる指示に応じます。この段階で音源ごとのおおよそのアサインをイメージします。機材の都合と私のオペレート技術の都合上、操作フェーダーは16本。ステレオ入力8系統ということになり、その範囲で「この音とこの音は同じ扱いかな」と予想しておきます。このあたりは長年の付き合いのおかげと言えなくもない気がします。その他にも俳優が音具

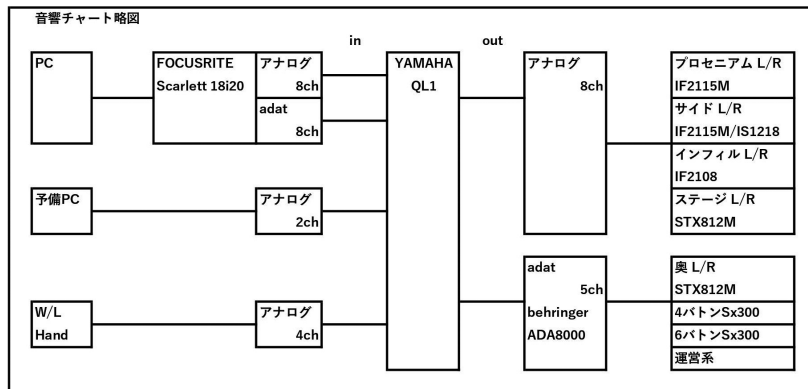


舞台前「ステージ」のSTX812M。そのままだと下手・上手前の客席を直撃してしまうので、箱足1つ分位置を高くしてあります。

を使用するため、その指導も音響プランナーが行います。今回の作品『きみのこえをさが



音響設定図。便宜上、舞台前に置くスピーカー JBL STX812Mは、インフィルとはちょっと異なる使い方——音像を下げるのが主目的——なので「ステージ」、舞台奥に置くSTX812Mを「奥」と呼称しました。吊ってあるEv Sx300については、それぞれ4バトン、6バトンと呼称しました。



音響チャート略図。いま思い返すと、2台のSx300はマトリックス経由かつアナログ出力に割り振るべきだったと反省。

して』の脚本は鹿児島県立伊集院高等学校の教員でもある上田美和さん、演出は劇団あおきりみかん主宰の鹿目由紀さん、演じるのは岐阜県内の高校生です。

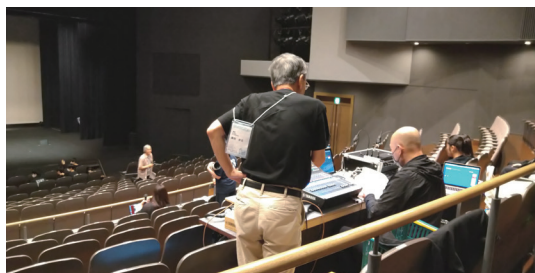
夕方からは照明・舞台の作業の合間を縫って、スピーカーのチューニングを行います。今回はまとまった音響作業のための時間を確保することができませんでした。とはいえ、チューニング、ディレイ設定と音源ごとのざっくりしたバランスをとれたので、上出来とします。時間帯の都合で高校生参加者に見せられなかったのが心残りです。

### 【3日目】7月31日(水)舞台稽古

この日から、「スカイホール(大ホール)」では、高校演劇の全国大会が始まります。高校生にとってはこちらが本編です。我々がお世話になっている「みのぎくホール(小ホール)」はパブリックビューイングの会場となるため、夕方まで作業ができません。もっとも私は、音を出さずに卓周りの各種調整を行うため、ひっそりと客席に居ます。音源の直しもふくめ、Liveのデータを整理しておく必要があります。何しろやり方を忘れていたため、時間

をかけて思い出しながら丁寧に作業します。

夕方からは、各セッション参加しての舞台稽古です。高校生の参加は20:00までです。10分未満の上演時間になる予定が、12分以上かかることが判明し、通し稽古の回数を確認するため慌ただしい雰囲気になります。かつ、音の一つ出すたびにプランナーから修正が飛んできます。私の組んだ卓とLiveのプランが何度か危機を迎えます。高校生たちは、プロの仕事——プランナーの判断力の速さ——に驚いています。私も自分の対応力の無さに驚きました。



舞台稽古中。プランナーとオペレーターのやり取り。

### 【4日目】8月1日(木)舞台稽古

この日も夕方までパブリックビューイングのため、音を出しての作業はできず。外付けSSDにデータのバックアップを取り、バック

アップのパソコンの設定を行います。音源の直しデータもやってきます。楽屋では、コーディネーターの土屋茂昭さんのもと、この日と翌日(本番日)の詳細なスケジュール調整が行われました。講師それぞれに講習会と作品への思いがあり、熱心に意見を交わしながら進められます。

夕方からは舞台稽古。プランナーから細かく修正が出ます。こういうときに慌ててデータを改悪してしまうこと——実際今回、音源の順番を間違えて組んでしまうことがありました——があるので、落ち着いて作業しつつ、こまめにバックアップを取ります。幸い、Liveの使い方を少し思い出していたので、オーダーにどうにか対応することができました。手加減してもらっていたかもしれません。



舞台稽古の様子。筆者の後頭部越しに。

この日は音響が退館時刻の21:30ぎりぎりまで残って作業しました。このときようやくオペレーションのランスルーができました。ひと安心です。

## 【5日目】8月2日(金)本番

朝、最後の修正音源が渡されました。データ修正～バックアップの後、最後のスタッフミーティングに参加し、大慌てで食事して本番に備えます。

講習会の本番では、まず照明・音響・衣装・小道具などの演出効果のない「素ヴァージョン」で一度上演され、3分ほどのセットアップののち、演出効果付きヴァージョンが上演されました。いずれも俳優たちが見事に演じ切ってくれ、受講者たちから盛大な拍手をいただきました。



本番の様子



本番オペレートの様子

上演の後は、各セクションの解説が入ります。音響では、プランナーによるプランの解説と、音楽の音像移動——音量感を変えずに、6バトンの吊りスピーカーをメインに俳優の背後に定位するBGMの状態から、オモテ(プロセニアムスピーカー・サイドスピーカー)に音像を広げ、のちBGMの状態に戻る——を披露しました。挙手で確認したところ、ほとんどの受講者は、BGMの音像の方が舞台上の生声が聞きやすいとのことでした。

つづいて講師陣による座談会が行われまし



座談会の様子。上手から脚本の上田美和さん、演出の鹿目由紀さん、美術の土岐研一さん、大会審査員の佐々波雅子さん、照明の乳原一美さん、音響の藤田赤目さん、舞台監督の吉木均さん、コーディネーターの土屋茂昭さん。

た。12分の作品に込めた各々の熱い思いが受講者に伝わったのではないのでしょうか。ことに赤目さんには、ある特別な音源についての思いを語っていただきました。

座談会のあとは受講者に舞台やバックステージを自由に動いてもらい、必要に応じて講師陣が対応します。音響卓の周りにも数名いらして、いくつか質問をいただきました。舞台上ではさまざまな音具の解説とデモンストレーションが行われました。デモンストレーションは高校生参加者が頑張ってくれました。



音具の解説の様子

講習会を終えてからは、高校生参加者たちとともに撤去作業に入ります。

撤去後は、講師陣が持ち込んだ大量のツールを私の車に押し込んで、ホールから2キロほど離れた宅急便の事業所に運び、その後私の持ち込んだ機材を積み込んだところで終了。

#### □おわりに

参加者にも受講者にも、意義深い講習会になったのではないのでしょうか。濃密な5日間は講師陣にも良い刺激になったと思います。私は久しぶりの現場で緊張感がありつつも、楽しく過ごすことができました。講師のみなさん、事務局のみなさん、高校生参加者のみなさん、お疲れさまでした。